



歴史のドアを開けよう

Natural History  
第55回

# いしかり博物誌

■文化財課 ☎72-6123  
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp  
■石狩浜海浜植物保護センター ☎66-6107  
ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

秋の川  
幾代の木々も  
浮はしむ  
小波  
詠

# 俳句ロードくさくさ

**石**狩は、江戸末期から戦

前まで俳句が盛んな町  
狩尚古社という俳句の会が  
あり、生振には弥生社とい  
う農民を中心とする会があ  
りました。

特に石狩尚古社は、本州

から有名な俳人や文人を招  
いたり、選者を依頼したり  
するなど、積極的に活動し  
ていました。明治三十八(一  
九〇五)年に石狩尚古社が刊  
行した句集には、遠くは沖  
縄など全国から俳句が寄せ  
られました。石狩尚古社には、

町の有力な漁家、商家、官  
吏など石狩の名士が多く参  
加していました。そのほ  
かに一般の事業者や漁民も  
参加していました。また、  
秩父事件の幹部で、事件後、  
石狩に潜伏していた井上伝蔵  
も尚古社の社員でした。

**と**ころで、このたび岩谷小波

の句碑が、いしかり砂  
丘の風資料館の前に建立さ  
れました。句碑は木製で、旧  
石狩町役場庁舎の梁を使っ  
ています。

小波は、明治から大正時  
代にかけて日本民話の集成  
やおとぎ話の創作などを発  
表し、児童文学の草分けと  
なった作家です。石狩尚古  
社と関わりが深く、選者と  
して尚古集にも句を寄せて  
います。この句は、小波か  
ら石狩尚古社の中島氏に贈  
られたもので、秋の石狩川  
の様子を詠んだものです。  
川面を流れる木々に太古か  
らの悠久の歴史を重ね合わ  
せて詠んでいるのではない  
かと思えます。

石狩市では、今後も弁天  
歴史通りを中心に句碑を建  
てていき、「俳句ロード」に  
しようと考えています。一度、  
「俳句ロード」にいらっしや  
いませんか？

(工藤義衛)



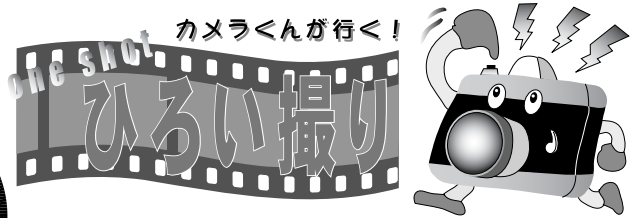
▲岩谷小波の句碑「秋の川 幾代の木々も浮はしむ」



4/27

## 新スポット誕生

石狩川河口周辺や石狩紅葉山49号遺跡に関する資料が充実する「いしかり砂丘の風資料館」がオープン。知的好奇心をくすぐるこの新名所では、市民の皆さんとともに博物館資料を集め、自然や歴史を調査研究し、その成果によって展示をどんどん新しくする予定です。



まちの主な出来事を写真で振り返るコーナーです。



5/12

## 合同消火訓練

平成11年から毎年、空気の乾燥と強風による野火火災を想定して実施される石狩市と札幌市の合同消火訓練。この日は総勢123人が参加し、想定どおりの強風の中で遠距離中継送水訓練や、自然水利からの揚水消火訓練などが1時間行われました。

## 大募集!!

広報紙への感想や批評、質問など何でもお寄せください。イラスト・写真（ともにオリジナル作品に限る）も大歓迎です。  
※匿名希望の場合もお便りには名前、住所、電話番号を必ず明記してください。

50 081-3292  
石狩市役所  
広報いしかり 行  
あなたの住所・名前  
電話番号

TEL (0133) 72-3153  
FAX (0133) 74-5581  
Eメール PR@city.ishikari.hokkaido.jp

## 句歌歳時記

【俳句】

裾だけは春をまといて蔵王山  
スコールやゆるりと歩む人のあり  
連翹れんぎょうや小鳥一羽の花隠れ  
丸七 武  
釣本 峰雄  
樋口 博

【短歌】

ひと冬を空けいし家の庭先に  
人待ら顔にたんぼぼの咲く  
石狩の河口に鳴きし鴉かあらは  
雪の岸辺を交叉まじりして飛ぶ  
猪又 孝子

アテネへと出場決める若人の  
熱き姿に世界地図見る  
浦島 秀男  
八田 清子



5/15

## 春の息吹感じて

はまなすの丘公園を散策する自然観察会での一コマ。イソスミレやハマハタザオが愛らしい花を咲かせ、野鳥が活発に飛び回る姿が見られるなど、公園はまさに春一色。自然の見せる豊かな表情に参加者たちも大満足でした。

